

誰でもできる「特別の教科 道徳」の授業（教材が物語的な場合）～指導過程のねらいと発問例～

	段階のねらい	発問例	留意点
導入	◆動機付けを図る。 ・ねらいとする価値に興味をもつ。（価値への方向付け） ・教材について関心を高める。（教材への導入）	・～したこと（できなかったこと）はありませんか。 ・～について、これまでどう考えてきましたか。 ・今日は～について話し合ってみましょう。 ・この話には〇〇という人が出てきます。 ・話の場所は～という所です。 ・話は～の時代で～という様子でした。	・新聞やTVの話題、子供の作文などに触れたり、直接「友情」などと扱う価値を板書して考えさせたりする方法もある。 ・アンケート結果の提供 ・時代背景、登場人物の紹介、人間関係、語句の説明などを行う。 ・写真提示なども有効
展開 ※前段	◆教材に登場する主人公に託して、自分の気持ちや考えを語る。 （道徳科の特質①） 【話し合いの目的】 ・自分がどんなことを考えたり感じたりしているかに気付く。 ↓ ・他の人の考えなどを知る。 ↓ ・さらに自分の考えなどを深めたり変えたりする。 ◎多面的・多角的に考える。 ◆「特別の教科 道徳」の目標に迫る学習を進める。 ①道徳的価値を理解する。 ・主人公の心情や態度の変化を振り返り、ねらいとする価値の大切さを知る。 ◎多面的・多角的に考える。	教材 さまざまに異なる体験や関心をもつ子供たちが、特定の価値について話し合うための共通の媒体 ・教科書などの「読み物教材」 ・写真、マンガ、映像などの「視聴覚教材」 特定の場面(迷い・葛藤・不安・疑問など)に着目して ・～のとき、主人公はどんなことを思っていたでしょう。 ・なぜ、主人公は、～をしたのでしょうか。そのときの思いはどのようなものだったでしょう。 基本発問⇒話し合う上で欠かせない発問 中心発問⇒基本発問の中で最も重要な発問 ・価値に迫る感動を味わう場面 ・多様な考えなどを引き出す場面 補助発問⇒基本発問を補うための発問 ☆教材に書かれてある内容を聞き出すことはしない。 （国語とは異なる点） ■前段から後段につなげる価値理解の発問例 ・今日は主人公の気持ちを考えてきました。この話からどんなことを学びましたか。 ・どのようなことが大切だと思いましたか。 ・□□とはどういうことであると思いますか。 ・主人公の生き方から何を学びましたか。 ・主人公にどんな言葉をかけたいですか。	・教材は教師が範読する。（1度の読みで子供に状況を理解させるため） ・教材提示に当たっては、臨場感を高める工夫をする。（絵や紙芝居、ペープサート、実物、映像、効果音などの併用） ・範読の後、教師があらすじを説明して、教材の内容を押さえる。 ・特定の場面をいくつか抽出して、そのときの主人公の心情を問いかける。 ・自分が主人公であるかのような気持ちにさせることが大切 ①「次に〇〇は何をしたのか」 ②教材を途中で止めて「もし自分だったらどうするか」の発問は避ける。 【理由】 ①あらすじについての話し合いになる。 ②子供を自己否定的な立場に置かせてしまう。※私にはできない・・・。 ③主人公を否定する可能性がある。 ・板書は、子供の反応を受け止めてから、後に類型化して示す。評価に生かす。（出てきた意見には似ている場合があるので、順に板書することはしない。） 【主体的・対話的で深い学び】 ・教材や授業から学ぶ道徳的価値についてグループ等で「考え、議論する」。 ※意見は一つにまとめない。 多面的・多角的な考えを尊重する。
展開 ※後段	②自己を見つめる。 ・道徳的価値にかかわるこれまでの自分の状況を見つめる。（道徳科の特質②） ◎多面的・多角的に考える。 ◆自らの「道徳的価値観」の形成を図る。 ③自己（人間として）の生き方についての考えを深める。 ・自己肯定感をもつ。 ・自分の特徴を知る。 ・自分の課題を考える。	・主人公の行動を通して大切なことに気付きました。そのことについて、これまでの自分はどうかであったのか振り返ってみましょう。その時の様子はどんなでしたか。何を考えましたか。 「できたこと」また「できなかったこと」どちらでもいいです。また「自分がされたこと」でも構いませんから、振り返って思い出すことを述べてください。 （プラスとマイナス両者の選択を任せる） ◆①と②を適切に行えば自然に③の思いは浮かび上がる。敢えて活動を行うとすれば以下の方法がある。 ・生きていく上で大切なことを学び、その上で自分のことを振り返ったり、友達の話の聞いたりしました。それらを通して、今、どのようなことを考えますか。 ・今までの自分、そしてこれからの自分へのメッセージを書こう。 ※感想とした場合は、道徳的価値にかかわる自分の生き方について経験に基づく記述となることが重要。	◆道徳的価値の理解に基づいて自分を見つめることが重要である。（内省化） 「自分の経験やそれに伴う感じ方や考え方を確かに想起したりすること」解説書 ・人にはできた自分もいれば、できなかった自分もいる。両者の場合があることを知らせて、今振り返るとどの自分が思い出されるかを語らせる方法が有効である。マイナスの経験を語る子供には、それを言えたことを褒め、励ます。 ・多面的・多角的な視点を示すことで振り返りを容易にする。 ・自分の考えや思いを深め、整理する。 ※感想の中でこれからの行動の仕方や決意を述べる場合が認められても、自然の思いなので許容する。
終末	◆心の中を整理する。 ・分かったことを確かめる。 ・考えたこと感じたことを深く心に留める。 ・これからに思いをはせる。	・先生にもかつてこんな経験が・・・（説話） ・授業を通して考えたことを書きましょう。 ・先生から一人一人にお手紙をあげます。（メッセージ） ・昔から～と言われています。（格言、ことわざ） ・友だちの作文を聞きましょう。（作文） ・みんなで～を歌おう。（音楽）	・実践を図る段階ではないので、全員に向けて「これからどうしますか」などの問いかけや「決意表明」を求めない。（特別活動：学級活動と異なる点） ※学級活動＝個人目標の自己決定・意思決定 ・余韻や感情の高まりを大切にします。

※ワークシートに書く箇所は時間を考慮して設定する。特に、後段での扱いは真剣に書くとかかなりの時間を要するため慎重に行う。例えば、授業で数人に発言させた後、ワークシートを持ち帰らせ、家庭で自分と向き合い書く方が効果的な場合もある。授業内で書いていなくても、発言を聞いて生き方などに思いを巡らせていることはある。授業を契機として子供たちがねらいに到達することが重要である。

※ワークシートは保存し、一定期間後に内容項目ごとにファイリングしなおす。再読することで自己の成長を実感させる。⇒自己評価